

人と人とのつながりの変化 形を変えてもつなげることは

市長 時代の流れの中で、保護者と子ども、保護者と地域、保護者同士の関係に変化が生じてきているということですね。ある意味、旧きよき時代の絆（きずな）が失われているという残念な部分がある一方で、おやじの会などの新しい組織、新しい絆も生まれています。

自治会、PTAなど、皆さんの組



織も、時代の流れとともにその役割や立場が変わってきたと思います。保護者や地域に暮らす大人として、子どもへの関わり方としてあるべき姿とはどんなものでしょうか。

大前 「おやじの会」は父親が主体なので、「今日はこれをやるので、来られる人は来てください」というスタンスです。お互いを拘束しないけれど、声をかけると自分か思っている以上の人が集まります。

羽田 狭山台中学校も以前は「おやじの会」があつたんですが、子どもが減り、会を維持していくことができなくなりました。今は「学校応援団」という形で、お母さんや祖父母など、学校を応援したい人たちが参加して活動しています。もちろん、自分たちが楽しむ時間も入れて、「できるときにできること」をやっています。

市長 まだボランティアという意識がないころでしたが、私が育つた入曽地区も、昔から学校応援団みたいなものがありましたよ。

廣岡 周りにも良い先輩がいて、遊びをみんな教えてくれた。今は親が友だちのつきあいを制限したりするから、遊びが育たない。レジャー

ルを敷いてあげないと遊べない。だから自分から、「やってみよう」と声が出せないのではないかな。そのうえ、今はスポーツ少年団に入っている子ども達が多く、土日曜日は練習に忙しくて、地域のお祭りなどに参加できないんだよね。

市長 逆に自治会から登下校の見守りなどの関わりが増えましたね。

廣岡 増えました。私もこの6年間朝だけは見守り指導しています。実はこれ、一度始めるとやめられないんですよ。毎日子ども達を見ているでしょう。用事があつて立て

組織の高齢化と後継者問題

横のつながりを大切に若い力の台頭を

市長 今の子ども達が健やかに育ち、地域を愛する気持ちを育むうでも自治会、PTA、おやじの会といった地縁組織の存在は、とても大切な役割を担っていますね。また、まちづくりの主役としての役割も一層期待されると思います。運営の難しさもあると思いますが、組織として子ども達にできることなどをお聞かせください。

廣岡 もっと若い人に自治会のトップになつてもらえたらと思います。仕事との関係もあるでしょうが、現役の人にもつとががんばつてもらいたい。70歳の人たちの考え

は、子どもが在学中だけなんですよね。そこで、子どもが卒業してもそのノウハウを地域に生かせないかと、昨年から同じ思いを持っている父親同士で活動を始めたのが「活ノ入間川・隣組」です。

市長 「活ノ入間川・隣組」による「つづじまつり」の復活はうれしいニュースでしたね。

さて、どこも後継者問題には悩んでいるようです。公民館のサークルも高齢化しているし、奉仕団体なども後が続かない。だからといって新しい団体を作るのではなく、代替わりしながら、継続していくことが大切。自治会こそそういった力を生み出せるように思います。

廣岡 自治会とPTAは、防犯パトロールをとおして繋がっています。目指しているのは、子どもの安全・安心の地域づくりです。他の団体とつながることも組織が育つために必要なことだと思いますね。

羽田 「狭山台ふるさと祭り」では、高齢化でテント張りができないという声があつたので、狭山台中学校の生徒たちにテント張りや片づけを頼みました。祭りに遊びに来るだけでなく手伝つてもらつて、一緒にイベントに参加する経験が、大人になつてから地域の活動に参加する原動力になると思つています。「中学生つて、こ

んなにいろいろなことができるのか」つてびっくりしますよ。

市長 誰かが声をかけてくれるということが大切ですね。組織がつながらないと大きな力が生まれます。

こうして私たちが作つた社会を、今度は今の若い世代が継いでいくわけですが、これからの子ども達が拓いていく未来の狭山はどんな姿であつてほしいですか。

羽田 「狭山はいいわね」と、他市に住んでいる友だちに言われることが多いです。子ども医療費が中学生まで無料であるとか、今年4月の時点で、国が規定する保育園の待機児童はいなかったです。また、児童館や図書館などの施設もそろつています。狭山の子ども達は大事にされてますよね。さらに高齢者対策として各地域に包括支援センターだつてあります。私が思うのは、30〜50歳代の子育て世代が元気であれば活気が出るということ。子育て世代も、高齢者も孤立させない横のつながりを大切にす

私たちがからのメッセージ

「これからの未来を担う子ども達へ

市長 最後に未来を託す子ども達に贈るエールと、そのために私たち大人ができることをメッセージとしてお願いします。

る狭山市であつてほしいですね。

廣岡 そのためにも年をとつた人をアドバイザーにして、若い人をリーダーにしてはどうでしょうか。高齢者も、若者を信用して、もっと若い人の意見を取り入れなくちゃ。自分の意見や夢が叶えれば伸び伸びしていくんですから。

大前 そうですね。施設や設備ができる、次はソフト面。それは、人とのつながりです。私も高齢者現役・子どもがつながることは大切だと思つています。でも、自分たちのことだけを見るのではなく、まわりとの情報交換もして、相手に足りない情報があれば、自分たちから発信していかないといいけません。

廣岡 狭山市のよさつて、案外住んでいると気づきにくい。11月2日(日)、自治会が中心となつてウォーキング大会を開催します(21ページに関連記事)。そのとき、他の参加者から、このイベントや狭山市のことなどについて、意見を聴いてみたいと思つています。

廣岡 私は子ども達にサッカーを教えながら、いつも言つていることがあります。「強いチームや選手でなく、社会とつながる、役に立つ

ないと、翌日子ども達に「おじさん、ずる休み？」つて聞かれるんですよ。子ども達との関係もできてきて、声かけは大事だということに改めて気づかされています。

羽田 見守り指導も保護者ができるのはよいのですが、お仕事などで参加できない部分を地域の方々にかバーしていただいています。本当にありがたいことです。

大前 私は転勤も多いので、いろいろな地域を見ているんですが、登校の列に大人がついて行っているのを見たのは狭山市が初めてです。

と、子ども達に対する考えは違つてしょう？そうでない子ども達が元気になれない。

羽田 狭山台地区では元氣プラザで子どもの陶芸・書道教室や、「心とお腹まんぷく会」など、さまざまな活動をしています。運営の主体は高齢者の方も多いので、若い世代の方も加わつてほしいですね。お祭りや、地区体育祭にも、PTA世代が子ども達と一緒につと参加して活躍できるとよいと思います。

大前 各校のおやじの会と2〜3年前から情報交換を始めました。でも、おやじの会に所属できるの

人になれ」と。練習中はずっと叱つてるんですよ。三つ叱つて一つ褒める。そうすると褒められたことが残る。褒めて育てることが素晴らしい青年、若いリーダーが育つ礎になると思つています。

羽田 子どもはお母さんが命がけで生んだんです。だから、どの子どもみんな幸せになつてほしいと思つています。

夜寝るときに、明日に希望を持って眠りにつけるよう、そして、自分が大切に愛されていることを感じてほしい。自分が愛されていると感じたら、他の人のことも大切にできるはずですから。

大前 明るく伸び伸び素直に育つてほしい。そのために、地域や親たちがバックアップしていきますよ。

市長 私も夢や目標を据えて、それに向かっていく力強さに期待しています。人口減少と少子化と聞くと希望を失いがちですが、今の子ども達には人と人とのコミュニケーションを大切にできる人になつてほしい。そして、親になつたら、誇りや信念を持つて子育てをしてもらいたい。一番大事なのは「人と人との絆」、その輪を大きくしていくことです。市としてもさまざまな施策を展開して、地域や人づくりを支援していきますので、よろしくお願いします。